



# 大庭小学校だより

文責: 佐藤



## 人生の轍(わだち)をつくるキャリア教育

先日の体育会では大きな声援をありがとうございました。トップクラスのスポーツ選手も声援が背中を押してくれたとインタビューに答えますが、きっと子どもたちも同じ気持ちであったはずです。スローガンどおり「みんなが輝く体育会」となったことを期待します。



盛り上がった応援披露

体育会は、小学校6年間を通して毎年行われる学校全体の行事です。上学年の競技や応援の様子を見て、「〇年生になったら綱引きをするんだ」とか「応援リーダーってかっこいいな」というように、先輩の姿に自分の未来を見ることになります。そして、上学年は後輩にかっこいい姿を見せようと自分の役割を自覚し、活動を通して成長します。



店長さんのお話を聞く3年生

先輩の姿に自分の未来を見ることは何も学校行事に限った話ではありません。普段の学習にも自分の未来を考えるキャリア教育(後述)の宝がたくさん埋まっています。ここでは先輩は働く大人となります。例えば、1年生では生活科がっこうたんけんをして学校の職員という働く人と出会い、2年生では、生活科まちたんけんでお店の店主さんや店員さんに出会い、3年生以上ではスーパーマーケットや消防署、福祉施設、工場などに、総合的な学習の時間や社会科で見学に行ったり、専門的な講師を招いたりして、教科の学習をする中で、働く人に自分の未来を見るわけです。これが中学校の職場体験につながることは言うまでもありません。

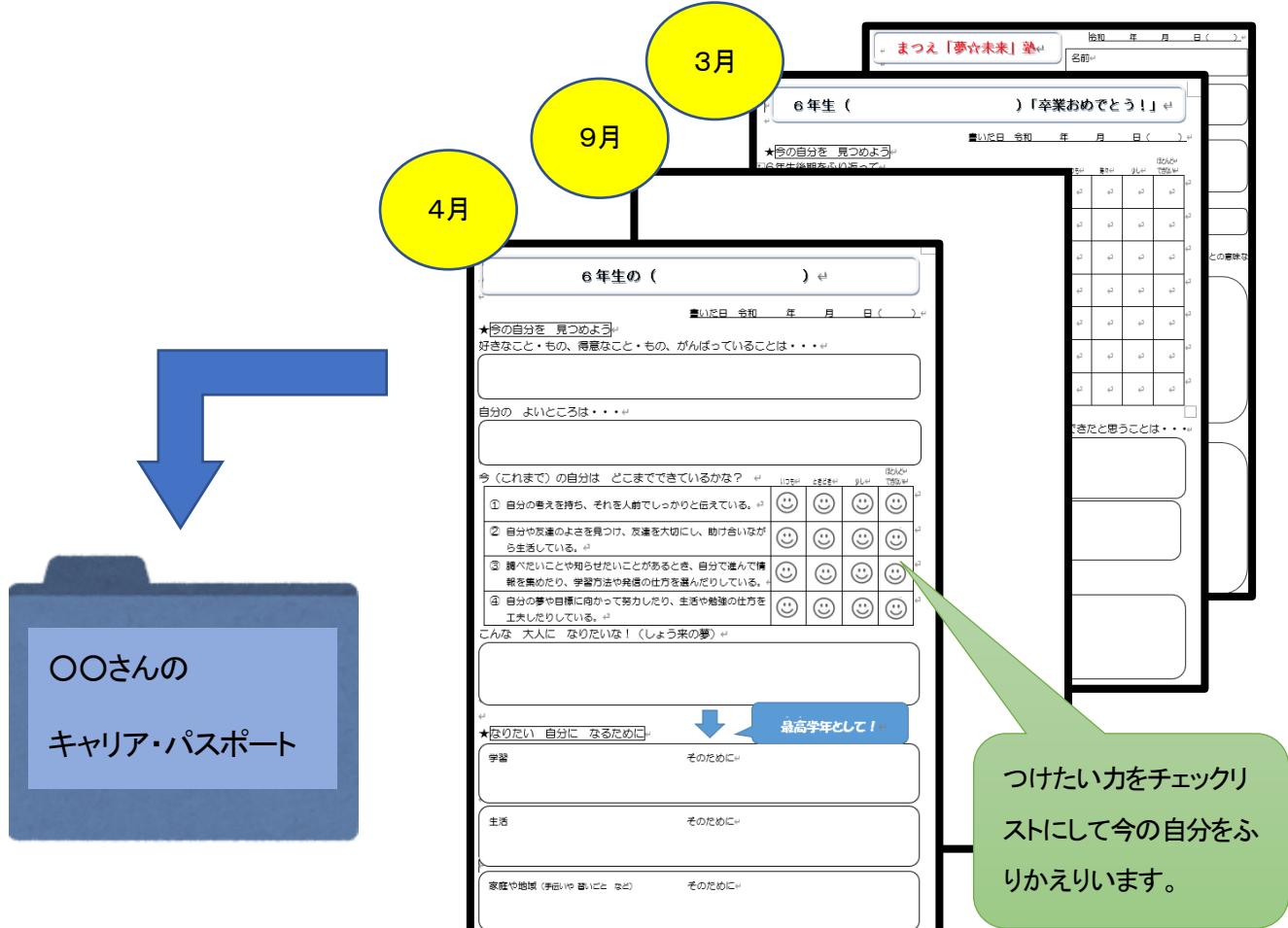
そして働く現場を学ぶことが、働くことと学ぶこと、教室で学習していることと未来の自分をつなげる機会となります。例えば、パティシエとしてお店を経営するには、「お店の環境整備が大切だから、毎日の掃除の時間に隅々まで気を配ろう」、「体力勝負だから体育で一生懸命走ろう」「材料の配合を学ぶために理科の授業でしっかりノートをとろう」というようにです。小学生ではそこまで明確な未来の自分像がなくとも、この学習は生活のこんなところに役立つと思える学習もまた宝となります。国語も算数もどの教科も、小学校の学習は日常生活に役立つものばかりです。

もちろん地域の中にも宝が埋まっています。長期休業中に開いていただいている「おおば寺子屋」では、近い未来の大学生、高校生、中学生と小学生が机を並べて学習します。公民館の行事では、たくさんの中学生がボランティアで参加してくれますし、地域のために活動する素敵な大人の姿もあります。この他にも、素敵な大人の姿はたくさんあるはずです。

キャリア教育は「自立に向けて必要な力を育て、誰のものでもない自分の人生を生きるようにする」働きかけです。(←正確な定義は末尾に)自立やよりよい人生につながらない教育は教育ではありませんので、キャリア教育は教育そのものと言えますし、本校の教育目標でも自立を大事にしていることもあります。「自立に向けて必要な力」でいうと、体育会では、「がんばりぬく力」や人と協力する意味で「自分も人も大切にする力」をもとに発達段階に応じて学年・学級・個人の目標を決めて取り組みました。高学年では同じ色の同学年や下学年に「自分の考えを表現する力」を發揮する機会もあったはずです。

キャリアの語源は車輪などの轍(わだち)なのだそうです。轍は過去から未来へと続くものです。体育会や音楽会の学校行事も、日々の教科の授業も教育活動全体が子どもたちの未来へと続くキャリア(轍)となることを意識して日々取り組んでいきたいと思います。

学んだ宝を「整理し」「振り返り」「未来に生かす」ため、キャリア・パスポートというファイルに6年間記録を残します。定期的に自分の学習や成長を振り返りつつ将来を見通したり、特に宝となりそうな体育会・音楽会や体験的な学習で学んだことを振り返ったりします。



こうして、自分を振り返ることで未来を見通したり、希望をもつたりしていきます。キャリア・パスポートは6年間(+3年間中学校にも引き継ぎます)の記録です。大事に持ち上がるため、10月と3月の年2回コピーを持ち帰って家の方に見ていただくことにしました。通知表「かがやき」とともにお子さんと一緒にご覧いただき、一人一人の学びと始まったばかりの人生を認め励ましていただけすると幸いです。※キャリア教育の定義「一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」。